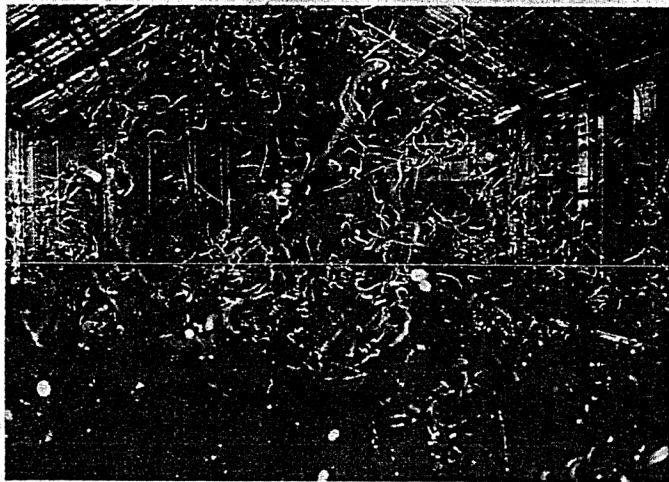


東京のホタル名所ピンチ

「ホタルの名所」として知られる東京・高島平の板橋区ホタル飼育施設で17代続くゲンジボタルの飼育がピンチだ。ことの発端は昨年夏に大量のカビが発生して卵や幼虫約100万匹が死んでしまったこと。生き残ったホタルから生まれた幼虫を飼育しているが、産卵数が減ったうえ、生育状況も悪いという。関係者は来夏の公開に向け、懸命の飼育を続けている。

板橋区ホタル飼育施設高島平団地の一角にあり、ホタルの生息する環境を再現した「せせらぎ空間」は特許を取得している。自生の危機に瀕(ひん)する全国21カ所のホタルを飼育し、種の保存にも取り組む。生育の環境づくりのための技術指導は全国63カ所にのぼる。

板橋区施設 大量のカビ 100万匹死ぬ



職員を増員、懸命の幼虫飼育

板橋区は89年、福島、栃木両県でゲンジとヘイケボタルの卵を採取して飼育を開始。ここ数年は約200万個のゲンジボタルの卵から約8千匹が羽化し、住民らが乱舞する姿を楽しんできた。飼育する同施設による卵が孵化するが、181

万個のうち約40万個が卵のまま死に、生まれた幼虫も連日のように万単位で死んだという。春には、幼虫は水中から土の上に出るが、この時点で前年の4万匹から1万5千匹に激減。6月中旬の特別公開で乱舞した成虫は、前年の半分の約4300匹にとどまった。その後、この成虫から17代目となるホタルが生まれた。だがメス1匹あ

6月の夜間特別公開で乱舞するゲンジボタル11板橋区ホタル飼育施設提供

たりの産卵数が減り、生まれた卵は例年の200万個から150万個ほどに。孵化も8割程度にとどまった。現在は幼虫段階だが、死ぬ割合が例年以上に高いという。施設では「カビに侵された観の影響である可能性が高い」とみている。

(佐々木隆広)